



J Aレーク伊吹 経済部 営農企画課

TEL 0749-63-2101 FAX 0749-64-2085

## 今月の話題

- ◆ 米検査状況
- ◆ 主な品質低下の要因と対策
- ◆ 来年度に向けた収穫後の雑草・病害虫対策
- ◆ 来年度に向けた土づくり
- ◆ 農地中間管理事業のご案内
- ◆ 農政ダイジェスト

### メモ

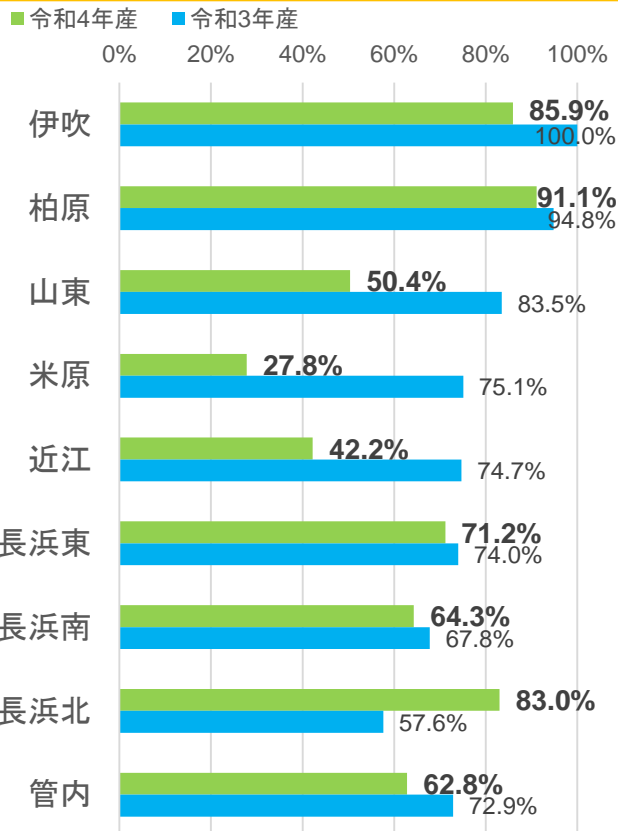


- ✓ 米出荷後の生産工程管理日誌(10月)の提出準備はお済みですか？
- ✓ 土づくり資材予約申込締切日は10月14日です。
- ✓ 土づくり資材配送  
10月配送希望の方には随時配送中です。  
委託散布は11月に作業予定です。
- ✓ 麦生産資材の配送  
粒状苦土、種子・種子消毒、基肥、除草剤は10月中旬頃に配送予定です。  
化成肥料201(追肥)…12月上旬  
ワークアップ等…3月末配送予定です。  
配送日のご希望があれば購買課へご連絡ください。

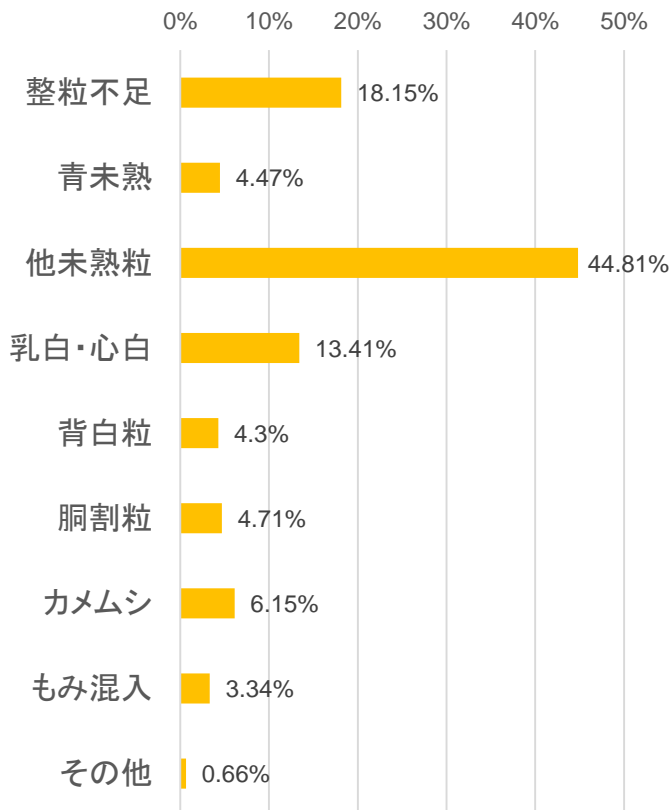
# 米検査状況

地場コシヒカリ1等比率は全体で去年から10.1%減少しました。また品質低下の要因については出荷開始当初については青未熟が多く、徐々に状態は良くなっていきましたが例年よりも早い梅雨入りと7月の「戻り梅雨」また8月の高温により未熟粒の発生が多い状況となりました。7月上旬頃より注意喚起させて頂いていた斑点米カメムシについても品質低下要因の比率が去年より5.4%増える結果となりました。

令和4年地域別地場コシヒカリ1等比率  
(水田活用米穀除く) 9/29現在

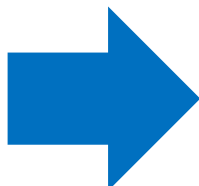


令和4年JA米コシヒカリ2等米以下の品質低下要因



## 主な品質低下の要因と対策

整粒不足 ・ 青未熟 ・ 未熟粒



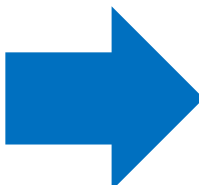
**原因**

- 収穫適期判断の難しさによる早期刈取。
- 登熟期の肥料切れによるデンプン競合。

**対策**

- 出穂期を把握し、収穫期を予想する。
- 適期中干し。幼穂形成期の肥培管理。

乳白 ・ 心白



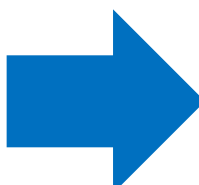
**原因**

- 登熟初期の高温・日照不足。
- 籾数過多による登熟初中期のデンプンの競合。

**対策**

- 遅植えによる登熟期の高温回避。
- 適正籾数の確保に向けた適期中干し。

カメムシ (斑点米)



**原因**

- 斑点米カメムシによる病害。

**対策**

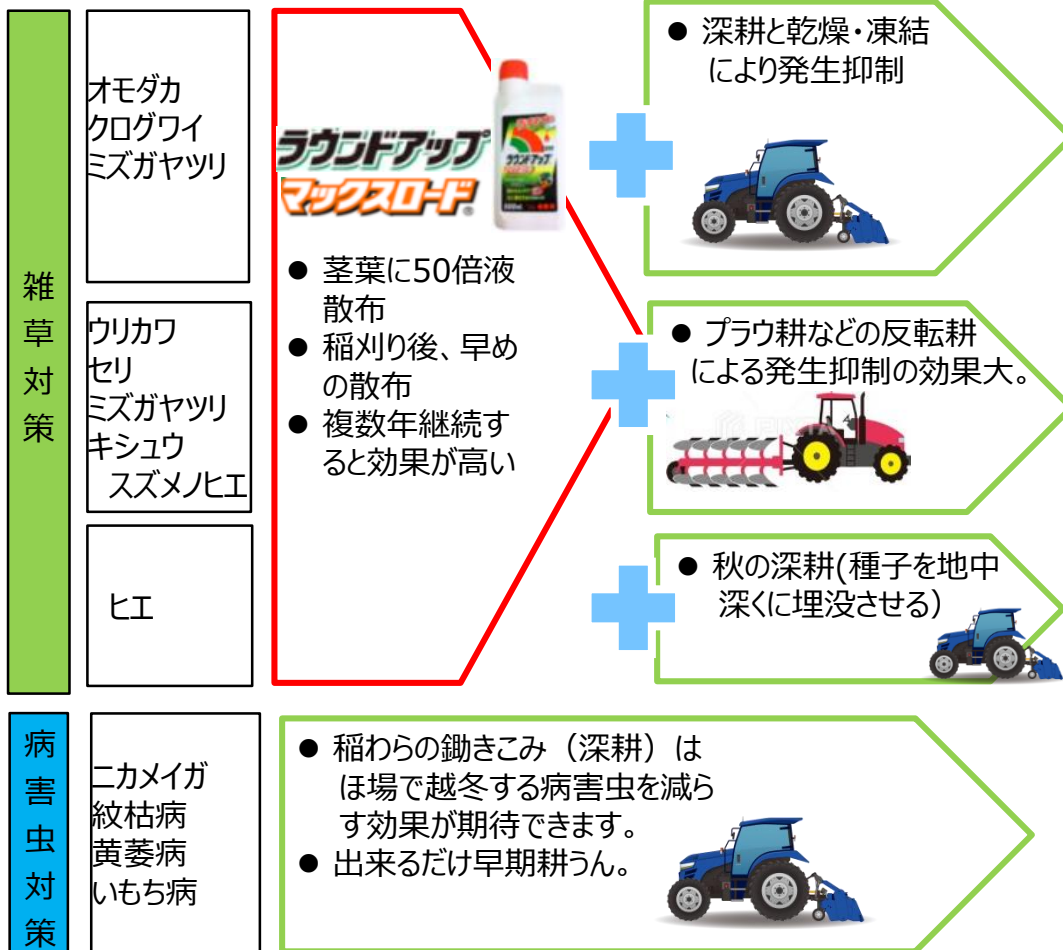
- 出穂前後3週間、畦草を繁茂
- 出穂10日～20日後の間における薬剤防除。
- ※ スタークル ( 粉剤・液剤・粒剤・豆粒剤 )

# 来年度に向けた収穫後の雑草・病害虫対策

近年、オモダカ・クログワイの難防除雑草等が増加しており、また、地域によってはニカメイガ、紋枯病、いもち病などの病害虫の発生を見うけられます。来年度に向けて稲刈り後(年内)の対策が重要となります。

稲刈り後	10月	11月	12月
------	-----	-----	-----

## 主な雑草と病害虫





## ラウンドアップの使用注意点

- ① 茎葉に50倍希釈液を散布
- ② 環境こだわり栽培の場合は1成分とみなされます。
- ③ 低温時は枯れるまで時間がかかります。早めの散布をお願いします。

# 来年度に向けた土づくり

田華の豊稲は非常にケイ酸が稲に吸収されやすい特徴をもつ製造の特許を取得した「溶融ケイ酸リン肥」とケイカルを配合し、低コスト化を実現した肥料です。

	砂状 20kg袋 予約価格 1,648円 当用価格 1,815円		粒状 20kg袋 予約価格 1,951円 当用価格 2,134円
--	--	---	--

水稲に必要なリン酸・ケイ酸の低い水田が多いのが現状です。

<b>アルカリ補給効果</b> 稲わら分解促進 PHの上昇・適正維持 カドミウムの吸収抑制効果	+	<b>りん酸補給効果</b> 根の生育促進 草型改善・根量確保 秋落ち軽減	+	<b>けい酸補給効果</b> 倒伏軽減 品質向上 病害虫抑制
--	---	--	---	---

土壌pHの状態については営農経済涉外にご相談ください。

土壌pH		5.5~6.0	6.0~6.5	6.5以上
田華の豊稲	砂状	80kg	60kg~80kg	60kg
	粒状	80kg	60kg~80kg	60kg

# 農地中間管理事業のご案内

中間管理事業とは、知事の指定を受けた公的機関である農地中間管理機構が、所有者から農用地等を借り受け、担い手がまとまりのある形で利用できるよう配慮して貸し付ける事業です。

<p><b>農地を貸したい方(出し手)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 契約期間終了後、農地は確実に戻ります。</li> <li>● 機構に貸付けた農地は、県税が軽減される場合があります。</li> <li>● 賃借料は口座振込による支払。</li> </ul>	<p><b>受付期間</b></p> <p>8月1日(月) ～ <u>10月31日(月)</u></p>
<p><b>農地を借りたい方(受け手)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 農地をまとまりのある形で借り受ける事が可能。</li> <li>● 農地を長期(原則10年以上)に借入でき、効率的、安定的な農業経営ができます。</li> <li>● 複数の所有者からの借受でも契約が一本化され、賃料の支払事務が軽減できます。</li> </ul>	<p>通年 (随時受付)</p>

**後期の申出期間は10月31日までです。ご注意ください。**

◆ 高齢  
◆ 農業後継者がいない  
◆ 農地を相続したが...

◆ 規模を拡大したい  
◆ 新規参入したい



## お知らせ

令和5年1月1日以降に新たに権利設定される場合、出し手、受け手双方から手数料が徴収されることとなりました。既存の権利設定は徴収対象となりませんが、期間満了や中途解約により令和5年1月1日以降に新たな権利設定が行われるものは徴収対象となりますのでお気を付け下さい。

## ひと月の動き 農政ダイジェスト

農業・地域の雑誌「地上」より抜粋  
～定価(税込)618円 購読申込受付中～

**2022年産米の収穫予想は平年並みの「101」**  
(株)米穀データバンクが4日に22年産米の収穫予想を発表。7月31日時点の全国作況指数は平年並みの「101」とした。天候に恵まれた地域がある一方で、6月の低温や日照不足、7月の大雨の影響があったことが原因。主食用米などの作付面積は推計126万3000ha、収穫量は1684万1000tとしている。

**22年上半期の農産物輸出額は4050億円**  
農水省が5日に「2022年1-6月(上半期)の農林水産物・食品の輸出実績」を発表。加工食品を含む農産物の輸出額は、前年比プラス7.9%の4050億円だった。欧米を中心に外食需要が回復したことや日本政府が進めてきた輸出拡大の取り組みなどが要因としている。一方で通常なら円安は一般的に輸出に好影響を与えるが、現在は生産資材や輸送費の高騰などにより輸出事業者には大きな負担がかかっている事も指摘している。

**ウクライナ産穀物の輸出再開**  
トルコは1日、ウクライナ南部のオデーサ港からウクライナ産穀物を積んだ貨物船が出発し、輸出が再開されたことを発表。19日には国連のグテレス事務総長がオデーサ港を訪問。貨物船への積み込み状況などを視察した。ロシアとウクライナはトルコと国連の仲介により、穀物の輸出航路の安全確保やウクライナの港湾の出入りの共同管理について7月22日に合意している。

**米価見通し、上昇が続く**  
米穀機構が7月の景況調査(DI)を発表。向こう3か月の米価水準の見通しは、前月比プラス3ポイントの56となり、6か月連続の上昇となった。その一方で、需給動向見通しは前月マイナス2ポイントの40となり、消費はやや減少する見込み。